

# アマモ場再生体験やキャラ作り

## 海守る大切さ知って

日生で  
前日  
備前  
ワーク  
ショッ  
プ

日本財団（東京）と山陽放送（岡山市）は県内の小学生を対象に、岡山の海について生ぶとともに海を守るキャラクターを考え描くワークショップを企画した。10日は備前市日生町で開かれ、児童は魚のすみかとなるアマモ場の説明を受け、再生活動を体験。思い思いに描かれた絵は後日、絵本にまとめる。

備前、岡山、瀬戸内「たくさん生えている場所」などの小学2〜6年生は魚介類の産卵・成育場所になっていると加。県の職員からアマモの生態や、アマモが

場再生活動の先進地と

る。キャラクター作りでは色鉛筆や水性ペンへ出て、種が詰まった「アマモ姫」や葉で「花枝」の採集も行った。アマモ場を増やす「マモン」などを描いてために続けられている作業で、集めた花枝は袋に入れて海中で葉や茎を腐らせ、種だけ取り出し10月にまかれ

岡山立五城小4年川上捺実さん（9）は「船でアマモを集めた時、いろいろな生き物が葉っぱについているのを見た。魚が卵を産んだりすんだりできるようにアマモを増やすことが大切だと



海上に出て種が付いたアマモを集める参加者



海を守るキャラクターを描いたワークショップ。作品は絵本になる

岡山立五城小4年川上捺実さん（9）は「船でアマモを集めた時、いろいろな生き物が葉っぱについているのを見た。魚が卵を産んだりすんだりできるようにアマモを増やすことが大切だと

思ったと話していた。でもらおうと日本財団が全国各地で展開する「海と日本プロジェクト」の一環。17日には岡山市、7月1日には玉野市でも行い、県立大の学生と協力して11月ごろに絵本にし、県内の図書館に配布する。（田村柚乃）

# 6月11日（日） 山陽新聞朝刊